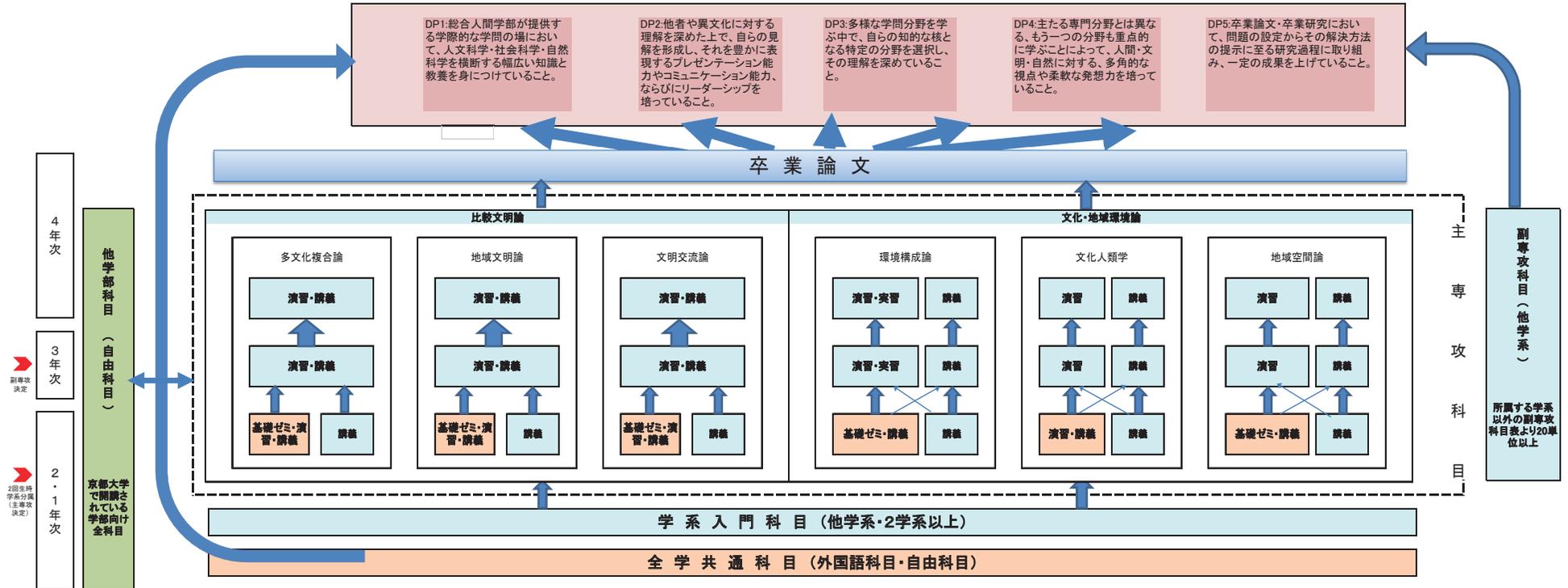


2019年度
履修モデル

文化環境学系

総合人間学部 文化環境学系 コースツリー



※科目名の詳細は、「履修モデル」を参照

凡例:



学系	文化環境学系					
関係・分野	比較文明論					
教員	多文化複合論 教授：小倉 紀蔵 准教授：勝又 直也		地域文明論 教授：赤松 紀彦 教授：太田 出		文明交流論 教授：岡 真理 准教授：中筋 朋	
1回生 2回生	多文化複合論		地域文明論		文明交流論	
	東アジア比較思想論（講義、演習）	文化交渉複合論（講義、演習）	東アジア比較芸能論（講義、演習）	東アジア文化交渉論（講義、演習）	ポストコロニアル思想文化論（講義、演習）	比較パラダイム文明論（講義、演習）
	科目名（関係共通の推奨科目など） 東洋史Ⅰ・Ⅱ、東洋史基礎ゼミナール、中国書誌論、中国古典講読論など。					
内容説明、履修上の注意点など アジア、アフリカ、ラテンアメリカおよび西洋の文学、思想、文化、社会、芸術に関心を持ち、多様な授業を履修した方がよい。あわせて英語はもちろん、中国語、朝鮮語、アラビア語、スペイン語、フランス語、イタリア語など西洋と非西洋世界を知的に往還するための言語を学んでほしい。また高度な日本語能力を養うことも大切である。						
3回生 4回生	多文化複合論		地域文明論		文明交流論	
	東アジア比較思想論（講義、演習）	文化交渉複合論（講義、演習）	東アジア比較芸能論（講義、演習）	東アジア文化交渉論（講義、演習）	ポストコロニアル思想文化論（講義、演習）	比較パラダイム文明論（講義、演習）
	科目名（関係共通の推奨科目など） ユーラシア文化複合論、中国社会論（講義、演習）、中国文字文化論、中国文化論、演習、文化人類学方法、地域空間論など。					
内容説明、履修上の注意点など 卒業論文の執筆に向けて問題意識を先鋭化させながらも、さらに多様な科目を履修する。						
<p>全体の説明 注意点など 非西欧文明は、西欧文明との衝突と受容を通して、みずからの地域文明の特性を維持するという、苦悩に満ちた歴史を経験してきました。比較文明論関係では、グローバル化が進行するいま、各文明の地域的特性を多角的に比較するとともに、文明相互の交流とその文化的所産、さらには文明の自己相対的諸相を、歴史的パースペクティブと構造的分析の複眼的視点から解明するための教育・研究を行います。履修生にはここにあげられた科目を幅広く学習することが期待されます。</p>						

学系	文化環境学系	
関係・分野	文化・地域環境論（環境構成論分野）	
教員	増井正哉 教授 歴史的環境保全・再生マネジメント 中嶋節子 教授 都市史・建築史・都市景観論 藤原学 助教 建築論・空間構成・建築と文学	
	「都市・集落の歴史と社会」コース	「建築・くらしの歴史と文化」コース
1回生	<p><学部科目> 文化環境学入門A/文化環境学入門B/国際文明学入門A <全学共通科目>（主専攻科目となる） 都市空間論/都市空間保全論/都市空間史論/都市空間論基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ/地域地理学関係科目/人文地理学関係科目 <全学共通科目>（主専攻科目とならない） 図学A・B/日本都市史/景観デザイン論/都市設計学/公共政策関係科目</p>	<p><学部科目> 文化環境学入門A/文化環境学入門B <全学共通科目>（主専攻科目となる） 都市空間論/都市空間保全論/都市空間史論/都市空間論基礎ゼミナールⅠ・Ⅱ <全学共通科目>（主専攻科目とならない） 図学A・B/住居計画学/日本建築史/世界建築史/芸術学Ⅱ/近代芸術論B</p>
	自由科目は相談してください。 他学部開講科目については、科目名、提供科目が異なる場合があります。シラバスや担当学部事務室で確認してください。	
2～3回生	<p><学部科目> 環境構成論/環境構成論Ⅱ/環境構成論Ⅲ/環境構成論Ⅳ （「環境構成論」は隔年で内容が変わります。いずれも重複履修可能。） 環境構成論実習Ⅱ/環境構成論実習Ⅲ/環境構成論実習Ⅳ/環境構成論演習Ⅱ/環境構成論演習Ⅲ/環境構成論演習Ⅲ（演習と実習は隔年開講。）/学部特殊講義ⅣB</p> <p>地理学 文化人類学 公共政策学 社会学 歴史学 造園学など接続する分野の授業を受講することをお勧めします。 自身の興味を研究へと高めることを意識した科目選択を心がけてください。</p>	<p><学部科目> 環境構成論/環境構成論Ⅱ/環境構成論Ⅲ/環境構成論Ⅳ （「環境構成論」は隔年で内容が変わります。いずれも重複履修可能。） 環境構成論実習Ⅱ/環境構成論実習Ⅲ/環境構成論実習Ⅳ/環境構成論演習Ⅱ/環境構成論演習Ⅲ/環境構成論演習Ⅲ（演習と実習は隔年開講。）/学部特殊講義ⅣB</p> <p>美学・歴史学・建築学など接続する分野の授業を受講することをお勧めします。 自身の興味を研究へと高めることを意識した科目選択を心がけてください。</p>
4回生	<p><学部科目> 環境構成論特別演習A・B</p> <p>卒業研究のテーマを設定し、論文執筆に向けて調査・研究を進めていただきます。論文執筆に必要な科目があれば、追加履修することをお勧めします。</p>	<p><学部科目> 環境構成論特別演習A・B</p>
<p>環境構成論は人間の生活環境である都市（集落を含む）と、それらを構成する建築（庭園・土木構造物・インフラ・緑地を含む）を扱う学問分野です。 この分野へのアプローチは、個々の構成要素から分析を進めるミクロな視点から、全体像を捉えるマクロな視点に至るさまざまな段階があります。それぞれの視点において、形成史や構成原理、歴史的・文化的背景、政治的・経済的背景、技術、思想など、フィジカルな現象のみならず人間社会的な事象も視野に入れて、人間の生活環境を深く理解することを目指しています。 ここでは、2つのコースを例示します。</p> <p>1. 「都市・集落の歴史と社会」コース（マクロな視点） 都市あるいは集落という空間的まとまりが、いかに形成され、変遷し、現在に至っているのかを理解するとともに、現代的課題として、その保全と継承、開発のあり方を考えるコースです。 <想定される職種> 都市論や都市史、歴史遺産の研究者・技術者/都市開発や都市計画、まちづくりに関係する仕事（ディベロッパー・コンサル・シンクタンク・ゼネコン・信託銀行・NPO法人・行政ほか）/伝統的町並みや文化的景観、世界遺産など歴史的環境の保全にかかわる仕事（国際機関・行政・コンサルほか）</p> <p>2. 「建築・くらしの歴史と文化」コース（ミクロな視点） 建築がいかにその形態を獲得したのか、また、それがどのように変遷したのかを、人間の営み、くらしとの関係に軸足を置きつつ、多面的に考えるコースです。 <想定される職種> 建築計画や建築史、建築遺産の研究者・技術者/建築・土木・デザインに関する仕事（ディベロッパー・コンサル・住宅メーカー・不動産業者・ゼネコン・信託銀行・デザイン事務所ほか）</p> <p>人間の生活環境を捉えるには、どちらのコースの内容も必要ですが、自身の興味がどちらに近いかを考えて、まずは1コースを選択してください。講義や演習を受けるなかで、両コースを組み合わせ、オリジナルのコースをつくることも可能です。履修回生はおおよその目安であり、シラバスに断わりの無い限り、履修順序は問いません。他学部の授業を積極的に受講することもお勧めします。開講科目は年度によって変更があるため、時間割およびシラバスで確認してください。</p>		

学系	文化環境学系	
関係・分野	文化・地域環境論（文化人類学分野）	文化・地域環境論（文化人類学分野）
教員	教授：風間計博	准教授：岩谷彩子
1回生	<全学共通科目> 文化人類学Ⅰ／生態人類学Ⅱ	<全学共通科目> 文化人類学Ⅰ／文化人類学Ⅱ
	全学共通科目については、2回生向けの授業を履修してもよい。哲学・思想・歴史・地理等、幅広く履修すること。また、全学教育科目「生態人類学Ⅰ」（ASAFAS教員提供科目）の履修を推奨する。	
2回生	<全学共通科目> 文化人類学各論Ⅰ／文化人類学各論Ⅱ／文化人類学調査演習 <学部科目> 文化人類学調査法	<全学共通科目> 文化人類学各論Ⅱ／宗教人類学／社会人類学調査演習 <学部科目> 社会人類学調査法
	調査法・調査演習は、それぞれの教員の指導により卒業論文を書く場合には、4回生までに必ず履修すること。また、学部特殊講義ⅣA（文化人類学調査実践演習）[担当：梶丸岳]の履修を推奨する。	
3回生	<学部科目> 環境人類学演習A／環境人類学演習B	<学部科目> 社会人類学演習A／社会人類学演習B
	環境人類学演習A/B、社会人類学演習A/Bは、それぞれの教員の指導により卒業論文を書く場合には、4回生までに必ず履修すること。また、「文化実践論A/B」（人文研教員提供科目）、「生態人類学演習」（ASAFAS教員提供科目）の履修を推奨する。	
4回生	<学部科目> 文化人類学方法A／文化人類学方法B	<学部科目> 社会人類学方法A／社会人類学方法B
	それぞれの教員の指導により卒業論文を書く場合には、必ず履修すること。この科目は、4回生のみ履修を認めるが、3回生以下でもオブザーバー参加は可能である。	
<p>文化人類学は、人間の生にかかわるきわめて広い領域を取り扱う学問である。したがって、文化人類学以外にも、人文社会系・自然科学系を問わず、多様な学問的知識を吸収しておくことが望まれる。また、卒業論文においては、フィールドワークが必須となるため、机上の学習のみならず、実際に人間が生活を営む場に参加する経験も重要である。</p> <p>「調査法・調査演習」は、フィールドワークの実践に対応した科目であるため、3回生までに履修しておくこと。これらに加えて、文化人類学分野で卒業論文を書く場合には、指導教員の開講する「演習A/B」「方法A/B」が必修となる。</p>		

学系	文化環境学系	
関係・分野	文化・地域環境論（地域空間論分野）	
教員	地域情報・都市地理学 農村地理学・中国研究 歴史地理学	教授：小方 登 教授：小島 泰雄 教授：山村 亜希
1回生	人文地理学 地域地理学 自然地理学 地理学基礎ゼミナールⅠ 読図 地理学基礎ゼミナールⅡ 作図	地理学基礎ゼミナールⅢ 地理情報 ILASセミナー 地理情報 ILASセミナー 地域地理学 ILASセミナー 歴史地理学 文化環境学入門A
	これらの授業は地理学の基礎的な科目です。受講を通じて、地域空間論／人文地理学とは、どのような専門領域であるか、そして指導をうけることになる教員はどのような人か、を知ってください。	
2回生	人文地理学各論Ⅰ（都市） 人文地理学各論Ⅱ（村落） 人文地理学各論Ⅲ（歴史地理） 人文地理学各論Ⅳ（地域情報）	人文地理学各論Ⅴ（経済地理） 地域地理学各論Ⅰ（日本） 地域地理学各論Ⅱ（欧米） 地域地理学各論Ⅲ（アジア・アフリカ）
	これらの授業は地理学の各論であり、1回生から履修を始めても構いません。受講を通じて、地域空間論／人文地理学をより深く理解してください。	
3回生	地域空間論ⅠA 地域空間論ⅠB 地域空間論ⅡA 地域空間論ⅡB 地域空間論ⅢA 地域空間論ⅢB	地域空間論Ⅳ 地域空間論Ⅴ 地域空間論演習Ⅰ 地域空間論演習Ⅱ 地域空間論演習Ⅲ 地理学特殊講義（文学部科目） 地理学講義（文学部科目）
	自らの研究の方向性を考えるために、上記の科目の履修を薦めます。とくに地域空間論演習Ⅰ、地域空間論演習Ⅱ、地域空間論演習Ⅲは、研究を進める方法を学ぶために、ぜひ履修してください。また指導教員を選んだ後期からは、四回生・院生が研究報告を行うゼミナールを聴講することになります。	
4回生	地域空間論演習Ⅳ 卒業論文は自らテーマを決めて行う研究活動ですので、学生は指導教員と対話を重ねて、考え、書いてゆくこととなります。また、卒業論文の途中経過について大学院演習等で発表し、研究室の学生・院生・教員と議論を行います。 なお近年の卒論テーマは、「日本酒と地域ブランド」「宿場町の近代化」「原発城下町」「地域おこし協力隊」「農山村地域と関係人口」「戦国城下町」「駅前商業集積」「メコンデルタ」「大阪の人口移動」「地名の認知」「六甲アイランド」「古着店の集積」「京都の賃貸料」「ゲストハウス」「シンガポール」「修学旅行」「京の口」「交響楽団の場所」「富山とフライブルク」「日本のフィリピン人」「農産物直売所」「近畿の砂岩採石」「ツーリングと道の駅」「京都の地下水」と多様です。 「地域空間論演習Ⅳ」以外に、とくに4回生でとるべき授業はありませんが、全学共通科目の基礎的な科目や総合人間学部の専門科目など、自らの教養を深めるための履修を行うことを期待します。	
<p>地域空間論分野は、人文地理学を専門領域の基盤に据えて、多様な地域の様態と空間の構造を学際的に研究する教員と学生・大学院生が集まる研究室です。小方登（地理情報・都市地理学）、小島泰雄（農村地理学・中国研究）、山村亜希（歴史地理学）の三名の教員が協力して、学生一人ひとりが自ら選択したテーマに関する研究と卒業論文作成をサポートしています。</p> <p>学生と教員が知的共有する人文地理学は、人間と自然の関係や地域の多様性を解明することをめざす専門領域です。履修にあたっては、地理学に関する履修（全学共通科目、総合人間学部科目、文学部科目）だけでなく、副専攻をはじめとする多様な専門領域の履修に挑戦し、さらには留学を含めた、将来にわたって自らの力を高めることを意識して、学部学生としての日々を有意義に使うことを期待します。なお、この研究室で学ぶにあたって、高校までの地理教育の知識は前提ではありません。</p> <p>1回生から全学共通科目の地理学関係科目（たとえば人文地理学各論や地域地理学各論）をたくさん受講することも、2回生から学部科目（たとえば地域空間論演習）を積極的に受講することも、自らの学習計画に応じて設計してください。</p>		